

株式会社ミュージックバード

第83回番組審議会 議事録

1. 開催日時 2021年5月27日(木) 14時00分～15時30分
2. 開催場所 ※ZOOMによるリモート開催
3. 出席者
 - <番組審議会委員>
 - 福本 ゆみ 委員
 - 中西 健夫 委員
 - 近藤 良 委員
 - 堀 主知ロバート 委員
 - 麻倉 怜士 委員
 - <ミュージックバード>
 - 代表取締役社長 雄谷 英一
 - 取締役技師長 土屋 充央
 - コンテンツ事業部 岩崎 育郎
 - コンテンツ事業部 関根 直子
4. 議事内容
 - (1)主な放送の活動
 - (2)番組試聴
 - (3)今後の施策について
5. 配布資料
 - (1)第83回番組審議会資料
 - (2)第82回番組審議会議事録
 - (3)2021年4月改編タイムテーブル
 - (4)MQA デブラー放送のご案内

(1) 主な放送活動

・各チャンネルの2021年4月改編について

【新番組】

① 121ch THE CLASSIC

◆「金子建志の新スペシャル・セレクション」

(月～木)14:00～18:00 再放送=(土)8:00～24:00

東条碩夫氏から音楽評論家、金子建志氏にバトンタッチし、装い新たに午後のクラシックワイドがリニューアルスタート！豊富な知識と深い解釈で、楽曲の真髓を読み解きます。

出演:金子建志



1966年4月、東京藝術大学音楽学部楽理科入学。在学中、音楽理論を柴田南雄に師事し、指揮法を渡邊暁雄に師事。1970年3月、同大卒業。この後、指揮法を齋藤秀雄、高階正光に師事。1985年、千葉フィルハーモニー管弦楽団結成。同楽団の常任指揮者として活動する他、市川交響楽団やカメラータ・ユピテル(現在の世田谷交響楽団)、19世紀オーケストラ、アンサンブル花火などの指揮者としてアマチュアオーケストラ活動にも関与。『音楽現代』『レコード芸術』『朝日新聞』の新譜月評を担当。日本レコード・アカデミー賞、審査委員長。NHK-FMでも音楽番組の解説を担当した。武蔵野音楽大学、東京理科大学講師。

◆「ハイレゾ・クラシック」

(金)14:00～16:00 再放送=(日)8:00～10:00

毎月ひとつのテーマをもとに、おすすめの高音質アルバムをお届け。クラシック界の新しいムーヴメントや、音楽以外のカルチャーとのつながりなど、いつもとはちょっと違った角度からクラシックの楽しみ方をご提案していきます。

出演:原典子



音楽雑誌・書籍編集者・ライター。上智大学文学部新聞学科卒業。音楽之友社『レコード芸術』編集部、音楽出版社『CDジャーナル』副編集長を経て、現在フリーランス。音楽雑誌・Webサイトへの執筆のほか、演奏会プログラムやチラシの編集、プレイリスト制作、コンサートの企画運営などを行う。鎌倉で子育て中。脱ジャンル型雑食性リスナー。2021年4月より音楽Webメディア「FREUDE(フロイデ)」をスタート。

◆「カンマー・ムジーク・コンサート～室内楽への誘い」

(金)16:00～18:00 再放送=(日)10:00～12:00

クラリネット奏者・近藤良氏による室内楽専門番組。

② 118ch SYMPHONIC ※新チャンネル

オーケストラの最新録音を中心に、極上のシンフォニック・サウンドを24時間楽しめる4月1日スタートの新チャンネル。

【4月のオススメ】

●『佐渡裕×辻井伸行 ラヴェル作品集』

演奏:辻井伸行(P)、佐渡裕指揮ウィーン・トーンクンストラ管弦楽団

何度も共演を重ねてきた佐渡&辻井によるラヴェル《ピアノ協奏曲ト長調》。そのほか、《ダフニスとクロエ》第2組曲、《ボレロ》、《亡き王女のためのパヴァーヌ》を放送予定。

●『ストラヴィンスキー:3楽章の交響曲・カルタ遊び・ミュゼの神を率いるアポロ』

演奏:パーヴォ・ヤルヴィ指揮 NHK 交響楽団

ストラヴィンスキーの新古典主義時代の名作をとりあげた 2018 年の N 響定演ライブ。複雑なリズムを丹念かつ繊細に刻む演奏に注目。

●『ジョン・ウィリアムズ ライヴ・イン・ウィーン』

演奏:ジョン・ウィリアムズ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、アンネ=ゾフィー・ムター(Vn)

ハリウッド映画音楽の巨匠がウィーン・フィルの舞台に初登場。自身の代表作を振った昨年話題騒然のライブ盤。

●『ベルリオーズ:幻想交響曲/黛敏郎:舞楽』

演奏:アンドレア・バットイストニ指揮東京フィルハーモニー交響楽団

世界が注目する若き指揮者・バットイストニが、自らが首席指揮者をつとめる東フィルとともに、スタンダードな名曲に新たな光を当てる。

【5月のオススメ】

●『ドビュッシー:管弦楽作品全集』

演奏:準メルクル指揮フランス国立リヨン管弦楽団

2021年シーズンからマレーシア・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督も務めることが発表された準メルクルの指揮によるドビュッシーの管弦楽作品集。《前奏曲集》《ベルガマスク組曲》などのピアノ曲のオーケストラ・ヴァージョンも必聴。

●『ブルックナー:交響曲第2番・第8番/ワーグナー:楽劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》前奏曲』

演奏:アンドリス・ネルソンス指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団

2021年2月の来日公演が中止になってしまったアンドリス・ネルソンス指揮ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団によるブルックナー・シリーズの最新盤。ワーグナーとのカップリングでおなじみの本シリーズの他の盤も放送予定。

●『ウィーン・フィル・サマーナイト・コンサート 2020』

演奏:ワレリー・ゲルギエフ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

コロナ禍のなか、2020年11月に来日したワレリー・ゲルギエフとウィーン・フィルが来日2ヶ月前に開催したコンサートから、映画『ドクトル・ジバコ』の組曲などの管弦楽曲を抜粋してお届けする。

●『マルティノフ:ユートピア交響曲』

演奏:ウラディーミル・ユロフスキ指揮ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団 & 合唱団ほか

ロシア・アヴァンギャルドの系譜に連なるウラジーミル・マルティノフが、老子の『道徳経』の英訳を用いてつくった作品の世界初録音。

(2) 番組試聴

① 121ch THE CLASSIC (2021年4月9日<金>16:00-18:00 放送)

【番組】『カンマー・ムジーク・コンサート~室内楽への誘い』

【出演】近藤良

【番組概要】アマデウス弦楽四重奏団に師事したクラリネット奏者の近藤良が、室内楽の魅力をご案内。毎回テーマを決めて、作曲家のエピソードや、その時代の文化背景などもまじえてレクチャーコンサート風に紹介します。

【出演者プロフィール】



クラリネット奏者。東京カンマーアカデミー代表理事。大阪芸術大学卒業。在学中より演奏活動を開始。卒業と同時にケルン国立音楽大学マスタークラスに留学。F.クライン(クラリネット)教授に師事。アマデウス弦楽四重奏団の室内楽クラスへ転科。同四重奏団チェリスト、M.ロヴェット氏と国内外での演奏、録音(ドイツ・シャルプラッテン・徳間ジャパン)活動を開始する。室内楽奏者として、国内外での著名なアーティストとの共演により多数のCDを国内外でリリース。

- 委員 演奏家ならではの番組。しゃべりすぎず全曲を聞かせるのが良い。選曲がバラエティに富んでいるが選曲理由をもう少し分かりやすくしてはどうか。
- 委員 毎回テーマがあり、今回は「音楽は語る」で、演奏＝語るの視点で選んだが、更に明確にしたほうがいいかもしれない。
- 委員 後の解説で、演奏の中で誰と誰が戦っていたなど付け加えるとよいのでは？
- 委員 評論家目線ではないカザルスとケンプのバトルの話は興味深い。近藤さんの声もよい。
- 委員 クラシックでの戦いの解釈が難しいが、「ここです！」というのがあれば面白い。楽器としてのなかなか表に出ないチェロの良さがよく分かった。
- 委員 シューベルトの同姓同名の人がいた、無名のシューベルトを有名にしたいと思う友達がいたなど、面白いエピソードだ。要はその時代のその場所や時間に聴く人を引っ張って行ってくれることが大切だと思う。アルペジオーネ(＝チェロにフレットがついている)はどんな音だったのか気になる。ベートーヴェンの時代のピアノは今のピアノとは違うわけだが、どこが違うのだろう？というような興味を持った。
- MB 以前アドバイスいただきながら、まだ実現できていないが、ツイッターなどで、放送中の番組で、聴きどころのポイントを発信することができるかと面白いのではないかと考えている。

② 122ch THE JAZZ (2021年1月24日<日>20:00-21:00 放送)

【番組】『ジャズ SP タイム』

【出演】瀬谷徹

【番組概要】19世紀末に生まれたジャズ、最初の録音はSPでした。100年の歴史を数えるジャズ録音の草創期をSPレコードで紹介。

この日の放送では、カウント・ベイシー楽団、初のヒット曲 One O' Clock Jump を含む 1937年7月7日の録音からスタート。印象的なリフ・アンサンブルとオール・アメリカン・リズム・セクションと言われたリズム隊の一体となった強烈なジャンプ・リズムに乗ったスウィング感溢れる演奏を。

【出演者プロフィール】



1950年生まれ、つくば市在住のジャズ愛好家。SP録音時代の1920～1940年代を中心とするSPレコード・コレクターで蒐集歴40年以上。1987年6月から「JAZZ SPレコードを聴く会」を主宰。

- MB 音楽を聴くメディアは今やストリーミングの時代だが、その前はCD、更にその前はアナログレコード、そしてその前は一番最初のパッケージメディアのSPレコードだった。ジャズが最初にレコーディングされて2017年で100年。1917年から30年間はSPの時代。当社としてはその時代の音を聞いてみようかと企画した。瀬谷さんはSPレコードのコレクターで状態のいいSPレコードを永年集め、多数所有している。コロナ禍の中では自宅当時のビンテージなプレイヤー、カートリッジ、アンプ、マイクを使って収録している。
- 委員 SP時代の名演奏が今聞けることに感動する。オーディオリスニング的に細かな何を使って再生しているかなどを解説してもいいと思う。専門的な内容なので当時のジャズの状況なども解説してもらえるといいと思う。
- MB SPのみで作る番組は当社しかない。
- 委員 曲と曲、解説との間を取って欲しい。
- 委員 貴重な音源で、当時どんなふうにかこの音ができなのか興味がある。第二次大戦の前の時代のアメリカの状況などに想像が広がるので時代背景を入れてもらえると聞き方が変わらと思う。
- 委員 印税の話などがあつたが、このSPレコードが出た時の音楽出版業界のありようなどもっと詳しく背景が聞きたかった。
- 委員 曲の後の感動などを入れると伝わりやすい。
- MB 自宅録音による制約があるが、改善して行きたい。

(3)今後の施策について



- MB 英国MQA社が開発した高音質技術を6月1日から124chで先ずスタートさせることになった。
- 委員 MQAはこれまでのハイレゾではできなかった技術で世界を席卷。高音質放送のMBならではのものである。しかも従来のチューナーで聞ける点が素晴らしい。ユーザーを増やす良いきっかけになると思う。
- MB 古いチューナーでも楽器の定位などが明確にわかる。年内に8つのチャンネルに拡大予定。124chでほかのチャンネルと同時間同一コンテンツを展開し、ザッピングで聴き比べができる。
- 委員 ステイホームの中でバックグラウンドにある音楽はとても重要。いい音で自宅で過ごすにはとても良いはずである。ネットストリーミングの世界も益々高音質化が進んでいる。
- MB 当社としてはネットストリーミング同様、CD チェンジの要らない音楽メディアとしてアピールしていきたい。今後とも貴重なご意見をよろしくお願いします。